

■東海・北陸ブロック 取組事例 (静岡県島田市 諸田 サヨ)

皆さん、こんにちは。これから「サヨばあちゃんの休憩所」のお話をしたいと思います。

私は、昭和26年に中学を卒業し、自分で生きるために三重県四日市市で就職しました。昼間は工場で働き、夜は定時制の高校に通う生活です。お盆とお正月にしか静岡の実家には帰れません。やっと帰れる日には両親を喜ばせたい、高鳴る胸を抑えながら大井川の鉄道SLに乗ってひたすら懐かしいふるさとへと向かいました。ですから、三重県は私にとって大変懐かしい、縁の深い場所です。本日はこのような機会をいただいてとてもうれしく思っています。



私は、平成9年に定年退職をしました。今から19年前、60歳のときです。60歳か、まだまだ若いなと感じました。子供たちはもうひとり立ちし、何の心配も要らない。第2の人生はこれからだ。自分のためにこの命を使おう。自分のやってみたいことを始めてみようと思いました。

実は定年前から少し気になっていたことがありました。地元で若者がいなくなり、老人ばかりになってきたことです。この調子では、若者のいない家庭では3度の食事も作れなくて困る。そんな高齢者が増えるに違いない。そこには自分の姿も重なりました。そこで、同じように退職し、子育ても終えた仲間へ声をかけ、高齢者のためにお惣菜づくりの活動を始めました。

その活動が軌道に乗りかかったころ、夫に先立たれ、私自身も2か月間点滴のみの入院生活を余儀なくされました。毎日毎日これからどうやって生きていこうかと考えました。



これから自分は一人、自分の人生のために生きようと改めて決意しました。病気も徐々に回復し、退院して1年あまり過ぎたころ、もう私は大丈夫ですとお医者様に言うと、女は強いな、男は大抵ここでだめになるよとおっしゃいました。

このころから私は食べることの大切さを痛感し、お惣菜づくりを一生懸命やろうと思いました。どうせ自分のために作るなら周りの人の分も作って喜んで食べてもらいたいと考えたのです。地元でとれたものをいっぱい使って高齢者に優しく、健康に暮らせるようなお惣菜づくりを心がけました。あれから19年、元気もりもり働いて、79歳の私は今、サヨバあちゃんとして生きています。



お茶の産地、川根を走る大井川鉄道の抜里駅をお借りしてお惣菜づくりを始めて10年ほどたったころです。地元のお惣菜屋さんとして、島田市、川根町の不便な場所にお住まいのお年寄りに声かけしながら、お弁当を宅配する活動もお手伝いするようになりました。そうした活動を地元静岡のSBSテレビさんが「サヨバあちゃんの無人駅」という番組にして放送してくれました。この番組は幸い賞をいただき、NHKの国際放送をはじめ何度も放送されました。

